

視聴覚障害者等向け放送に関する研究会

第1回研究会

日時: 2017年9月21日(木)9:30~

場所: 総務省第1特別会議室(中央合同庁舎2号館8F)

きこえない人の放送バリア

一般財団法人全日本ろうあ連盟

理事 石橋 大吾

きこえない→音声による情報を獲得できない

※きこえることを前提した音声言語社会で
成り立っている

- ・テレビ放送 字幕・手話のない放送
- ・ラジオ・FM・防災無線

情報が入らない

いろいろな情報を入手できない

⇒きこえる人と情報格差

社会参加が困難

きこえない→音声による情報を獲得できない

※きこえることを前提した音声言語社会で
成り立っている

- ・テレビ放送 字幕・手話のない放送
- ・ラジオ・FM・防災無線

情報が伝わらない

⇒東日本大震災時

きこえない人の死亡率は

きこえる人の2倍

⇒場所によって5倍のところもある

<手話放送の課題と提案>

1. これまでの指針

「実施・充実に向けてできる限りの取り組みを行う」としているが、結果的には**ほとんど進展なし**。

⇒**次期の指針では、必ず数値目標を設けること**

2. 手話通訳者が隣にいても手話通訳者がフレームから**外された映像**になる。他国では考えられない。

手話通訳者がワイプ挿入されたとしても、再放送時はワイプがつかない。

⇒**手話通訳者がいる場面では必ず話者とセットで録ること**

手話放送時間の拡大につながり、再放送時も手話通訳者付きで放送できる。



NZの緊急記者会見の様子

左:手話通訳
右:話者

<字幕放送の課題と提案>

1. 普及目標の対象時間が7時～24時のみ

早朝のニュースに字幕が付かない。

北朝鮮ミサイル発射のニュースも、7時前だったので第一報には字幕がなかった。

⇒普及目標の対象時間を総時間(24時間)とすること

2. 生放送は正確性等が問われる等、技術的困難度が高いので、字幕がつかないことがある

災害時の緊急放送、国会中継など、重要な報道こそ生放送で、すぐに国民全体が情報共有しなければならないのに手話・字幕がない。

⇒生放送こそ、手話・字幕放送が必要である

生放送時の手話・字幕放送の数値目標を設けること

3. 地方局独自で作成する番組には、ほとんど字幕が付かない。

○地域の住民にとって必要な情報が、その地域にいるきこえない人には伝わらず、**多文化共生社会**の中で生活する上で、かなり**情報格差**が生じている。

○大都市圏と地方の**地域格差**が生じている。

⇒**地方局作成の番組に対する字幕付与率の目標を設定すること**

4. 字幕が見にくい

○収録時に、「あとで手話・字幕が付与される」**意識が足りない**

○各局によって、字幕の表示がまちまちで**見づらい**

⇒**字幕を考慮したユニバーサルな映像づくり、字幕表示方法の規格化などの検討すること**

5. 副音声に字幕がない

副音声を利用し、リアルタイム視聴を狙った番組づくりが行われているが、きこえない人は**楽しめない**。

⇒**データ放送画面を利用するなど、字幕表示方法の検討すること**

6. 字幕付きCMが増えない

○複数の企業が提供する番組のCMに字幕が付き始めたが、まだ少ない。

○どの番組に字幕が付いているか情報が分かると視聴し、そのさまざまな効果も明確になり、新たな字幕付きCMの普及につながる。

⇒**字幕付きCMが見られる番組の情報公開すること**